

強化ガラスのご注意



ご注意

- ① 熱処理によって加工された製品ですので、製造後の切断および孔あけ、面取り、切り欠き、曲げなどの加工はできません。寸法および形状は正確にご注文ください。
- ② 網入、線入板ガラスを強化ガラスに加工することはできません。
- ③ 熱処理をしているため通常の板ガラスと比べて、反射映像や透視映像のゆがみが大きくなりますので、予めご了承ください。高性能熱線反射ガラス(スカイクール)の場合、ゆがみが強調されますのでご注意ください。
- ④ 光の当たる角度と見る角度によっては、ガラス表面に偏光による特殊な模様が見えることがあります。製造上避けられない現象ですので、予めご了承ください。
- ⑤ ガラス面やエッジに傷をつけると、強度が低下します。通常の板ガラスと同様に扱ってください。
- ⑥ ガラスの表面やエッジに深い傷が入ると破損することがあります。
- ⑦ ごくまれに外力が加わっていない状態で不意に破損することがあります。P.32の「強化ガラスを安全にお使いいただくために」をご参照の上、不意の破損による被害の発生を防止するようご注意ください。
- ⑧ フロート板ガラスと比較して、表面が傷つきやすいため、クリーニングの際にカッターや金属製のスクレーパーなどは使用しないでください。スクワイジ(ガラス清掃用水切り器具)の金属部分がガラスに触れないようご注意ください。
- ⑨ その他、ガラス共通の注意事項が記載されています。P.2~5の「ガラスを安全にご使いいただくために」をご参照ください。



設計・施工上のご注意

- ① 「強化ガラスの標準施工法」に準じて施工してください。
- ② 強化ガラスは、全面破損し脱落することもありますので、トップライトや吹き抜け部のガラス手すりなど、破損時に脱落が許されない場所での使用は避けてください。万一ご使用になる場合は強化合わせガラスとしてご使用ください。
- ③ 強化ガラスは、面内に比べエッジ部は、耐衝撃強度が弱くなります。
- ④ ガラスのエッジ部や孔あけ部はサッシなどの金属部との接触を絶対に避けてください。
- ⑤ エッジ部を露出した納まりの場合、強化合わせガラス仕様としても破損時にエッジから破片が脱落する恐れがありますので、エッジカバーを取り付けるなどの落下防止措置を講じてください。
- ⑥ スクールテンパレックスの受注最大寸法を超える場合には、呼び厚さ6ミリ以上のテンパレックスをご使用ください。
- ⑦ ミストレックスSは、型模様を室内側にしてご使用ください。
- ⑧ 強化ガラスの使用部位は容易に日常点検が可能な箇所に限定されることを推奨します。
- ⑨ その他、ガラス共通の注意事項が記載されています。P.2~5の「ガラスを安全にご使いいただくために」をご参照ください。

倍強度ガラスのご注意



ご注意

- ① 熱処理によって加工された製品ですので、製造後の切断および孔あけ、面取り、切り欠きなどの加工はできません。寸法および形状は正確にご注文ください。
- ② 倍強度ガラスの曲げ加工はできません。
- ③ 強化ガラスではありませんので、強化ガラススクリーンとしての使用はできません。
- ④ 人体や物体が極めて大きいエネルギーで衝突した場合は、フロート板ガラスと同様に多数のクラックが生じ、破片が脱落することがあります。このような衝撃の起こりやすい部位への使用はお避けいただくか、衝突を防止する措置を講じてください。
- ⑤ 熱処理をしているため通常の板ガラスと比べて、反射映像や透視映像のゆがみが大きくなりますので、予めご了承ください。高性能熱線反射ガラス(スカイクール)の場合、ゆがみが強調されますのでご注意ください。
- ⑥ 光の当たる角度と見る角度によっては、ガラス表面に偏光による特殊な模様が見えることがあります。製造上避けられない現象ですので、予めご了承ください。
- ⑦ ガラス面やエッジに傷をつけると、強度が低下します。通常の板ガラスと同様に扱ってください。
- ⑧ ガラスの表面やエッジに深い傷が入ると破損することがあります。
- ⑨ 強化ガラスと同様に、製造過程で混入した微小な不純物に起因して、ごくまれに外力が加わっていない状態で不意に破損することがあります。
- ⑩ フロート板ガラスと比較して、表面が傷つきやすいため、クリーニングの際にカッターや金属製のスクレーパーなどは使用しないでください。スクワイジ(ガラス清掃用水切り器具)の金属部分がガラスに触れないようご注意ください。
- ⑪ その他、ガラス共通の注意事項が記載されています。P.2~5の「ガラスを安全にご使いいただくために」をご参照ください。



設計・施工上のご注意

- ① 「倍強度ガラスの標準施工法」に準じて施工してください。
- ② ガラスのエッジ部や孔あけ部はサッシなどの金属部との接触を絶対に避けてください。
- ③ 倍強度ガラスの使用部位は容易に日常点検が可能な箇所に限定されることを推奨します。
- ④ その他、ガラス共通の注意事項が記載されています。P.2~5の「ガラスを安全にご使いいただくために」をご参照ください。